

2021,11,29(月) 自然・歴史探訪 元亀争乱/信長の危機 田屋城跡

11月27日の予定でしたが、雨予報のため、実施日を変更。好天の行楽日和。まったりと田園風景を楽しみながらハイキングを楽しみました。沢の長法寺跡・森西の大處神社・田屋城跡から稲山隧道・青地山古墳・メタセコイアの並木など楽しみながら、マキノ駅まで、道中、柿の実・カリンの実・ギンモクセイのお花・木々の紅葉など畑・御庭など眺めながら、この時期の自然・歴史を満喫しました。特に、田屋城跡からの眺望はすばらしく、「いいね・・・」と皆さん大喜び。メタセコイアの並木も丁度見ごろ、感動の多いハイキングでした。今日も自然に感謝。出会いに感謝の一日でした。

◆ハイキングの様子



タニウツギの花が  
{かわいい}



のんびりと田園風景  
わ楽しみながら



マツヨイグサ



長法寺：田屋氏の居間跡



L字型土塁を観察



クチナシの実  
お餅など黄色の染料になる  
子供の頃、持って帰ると母親が喜んだ・・・。など話題に。



大處神社：式内社、田屋氏が信仰していた..「立派な社殿ね・・・」



田屋城跡へ



立派な堀切・「すごい・・・」



記念撮影  
「良い所やね・・・」と話題に



眺望が良いね・・・。



立派な堀切「凄いね・・・」



内枳形虎口



主郭：土塁の高さ。大堀切の凄さを見下ろす観察。



主郭の高い土塁へ



大堀切を体感



捨て曲輪にて、いろいろ散策、かなり大きな曲輪ね・・・



駒返し・搦手方面へ



青地山古墳



ダンコウバイ葉を観察 「いろいろ形がちがうよ・・・」  
と、手に取って観察。



田屋城跡登山口に戻る



メタセコイアの並木で記念撮影



「きれいね」



鐘撞堂の彫刻が話題に。

「りっぱね・・・」

## ◆歴史

### ① マキノ高原のメタセコイアの並木 「新・日本街路樹百景」

農業公園マキノピックランドを縦貫する県道小荒路牧野沢線には、延長約 2.4km にわたりメタセコイアが約 500 本植えられ、遠景となる野坂山地の山々とも調和し、マキノ高原へのアプローチ道として高原らしい景観を形成しています。

この並木は、昭和 56 年に学童農園「マキノ土に学ぶ里」整備事業の一環としてマキノ町果樹生産組合が植えたのが始まりですが、組合関係者をはじめとする地域の人々の手により慈しまれ、育まれて、その後さらに県道も協調して植栽され、延長が伸ばされたことから、現在のこの雄大な姿となったものです。メタセコイアは、中国原産、スギ科メタセコイア属の落葉高木で、和名はアケボノスギといい、樹高は約 35m に及ぶと言われています。最大樹高が 115m にも及ぶといわれるセコイアにその姿が似ていることから、メタ(変形した)セコイアと名づけられています。春の芽吹き・新緑、夏の深緑、秋の紅葉、冬の裸樹・雪花と四季折々に訪れる人々を魅了します。平成 6 年、読売新聞社の「新・日本の街路樹百景」に選定され、注目を集めています。

### ②大處神社(おおところじんじゃ)

平安時代中期(10世紀)に編纂された延喜式神明帳(えんぎしきじんみ

ょうちょう)に記されている式内社(しきないしゃ)です。古代高島郡10郷(ごう)の一つ、大處郷がこの

あたり一帯であったと推測されています。祭神（さいじん）は、大地主命（おおとこぬしのみこと）で、もとは国主大明神（くにぬしだいみょうじん）と称されていました。創始は天智天皇（てんじてんのう）9年（671年）です。

応永9年（1402）、応永13年（1406）、天正13年（1575）の棟札（むなふだ）が残っていて、社殿の造営に清原氏、田屋氏、饗庭氏、藤原氏などが関わっていたことが窺えます。

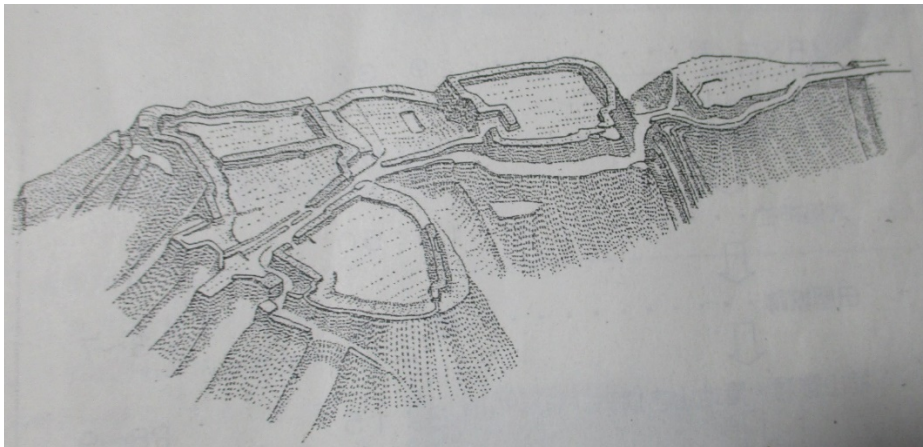
現在の本殿は、三間社流造（さんげんしゃながれづくり）で、天保9年（1838）に再建されたものです。境内社（けいだいしゃ）に酒波神社（さなみじんじゃ）があり、素戔嗚尊（すさのおのみこと）を祀っています。この神社と神を田屋氏は信仰したとも伝えられています。

境内にあるカツラの木は「滋賀の銘木」に選ばれています

**③稲山隧道**（いなやまずいどう） 山田川の水をマキノ町森西集落の西の山麓にひくため、稲山（いなやま）と呼ばれる丘陵を掘り抜いたトンネル水路のことです。

森西区は、古来より灌漑の水に恵まれず、日照りによる被害（干害）に悩まされていました。そのため水口善蔵氏らが中心となって、長年にわたり協議した結果、水口善蔵氏が所有する山林を掘り貫き、新たな水源を求め、山田川の取水口から隧道入口まで約100m、隧道延長約200mの約総延長300mの工事を明治28年に着手し、明治35年に完成したと言われています。全線、主として石材により造られています

**④ 元亀争乱—信長の危機—田屋城ウォーク** パンフレッドを作成しました。一部を掲載します。



田屋城跡俯瞰図

元亀年間（1500年代後半）に、湖西を中心に繰り広げられた織田信長VS反信長勢力（比叡山延暦寺・石山本願寺・浅井氏・朝倉氏など）の戦い。この戦いは、天下統一をひかえた信長にとって越えなくてはならない高いハードルでした。高島市には、この戦いに関係したと推測されるお城が数多く残ります。

田屋城は戦国時代の末に高島郡北部を支配していた海津衆（かいずしゅう）の一氏、田屋氏の城と伝えられています。田屋氏は、浅井亮政（あざいすけまさ）の女婿（むすめむこ）として、浅井氏の高島進出に大きな役割を果たしたと考えられています。

田屋城は、枡形虎口や多数の堅堀など、当時の先進的な築城技術を取り入れ、領地支配のためには不必要なほど大規模、かつ、堅固（けんご）なものです。おそらくは、浅井・朝倉連合軍の高島進出を支え、織田信長の北陸方面への侵攻（元亀争乱）を食い止めるための戦略的な拠点として、元亀年間（1570頃）に、大規模な改造が行われたものと考えられます。

この田屋城からの眺望は大変良く、平野や琵琶湖、竹生島など見渡すことができます。

## 田屋氏について

### 承和(じょうわ)元年(834) (続日本後記)

近江国人・・・下毛野朝臣田舎麻呂(しもつけのあそんたしゃまる)・・・と記す

### 応永13年(1406)室町時代初期

大處神社棟札に清原・・・と記す

### 寛正(かんしょう)6年(1465)

「親元(ちかもと)日記」に田屋・饗庭・新保氏上洛と記す

### 永正(えいしょう)年間(1504~1520)

「長法寺伝」に領主は田屋淡路守(たやあわじのかみ)と記す

### 天文2年(1533)

浅井新三郎明政(あざいしんざぶろうあきまさ)と浅井氏娘・鶴千代は既婚

### 天文4年(1535)

棟札に田屋清原頼秀(たやきよはらよりひで)と記す

### 天文7年(1538)

浅井方として海津で挙兵す

### 天正元年(1573)

小谷城落城・浅井長政(あざいながまさ)自刃

### 天正3年(1575)

大處神社棟札に田屋治郎左衛門尉吉頼(よしより)と記す

### 天正18年(1590)

豊臣秀吉の兵農分離政策以降に田屋氏は消滅か

### 文禄2年(1593)

田谷治右衛門茂頼(たやじうえもんしげより)(吉頼(よしより)の四男)神職  
芦見(あいつみ)氏の娘と婚姻 以降 田谷氏となる

## 田屋城について (略歴)

### 観応(かんのう)3年(1352)頃

饗庭命鶴丸(関東から上洛・足利尊氏の侍童(じどう)が築城したと伝える「海津之城私考」より

### 応永年間(1394~1472)

清原蓮兼(きよはらはすかね)が城主と伝える

### 永正年間(1504~1520)

領主は田屋淡路守(たやあわじのかみ)と記す 「長法寺伝」より

### 天正年間(1573~1590)

田屋山城守吉頼朝臣が城主 天正の頃、織田信澄(信長の甥)が廃城と為す 「海津之城私考」より

### 天正10年(1582)

丹羽長秀 柴田勝家(しばたかついえ)との合戦に備え、森西城(田屋城)・沢村城・知内浜城の3城を修復

ここに一部掲載しましたが、ご参加のみなさまに配布しました。

お疲れさまでした。